

東京言語研究所での長谷川欣佑先生
大津由紀雄
第3代運営委員長

2023年3月31日に長谷川欣佑先生が逝去されました。享年88歳でいらっしゃいました。ご承知のように、長谷川先生は英語学界・言語学界で重要な業績を上げておいでですが、東京言語研究所に対してもその草創期から多大な貢献をされてこられました。

1966年にノーム・チョムスキーが来日して、開設されたばかりの研究所で国際セミナーが開かれました。このセミナーは日本における生成文法の普及に決定的な役割を果たしました。そのセミナーでは、チョムスキーの講義を聴くだけでなく、日本人研究者による研究発表も行われ、長谷川先生も変形規則の演算に課される制約について話題提供をされました。その後、このときの発表を発展させた論文がアメリカ言語学会の機関誌である *Language* に掲載されました (Kinsuke Hasegawa. 1968. "The Passive Construction in English" *Language* 44, 230-243)。

理論言語学講座では、1967年度に「英語生成文法」を担当されたのを皮切りに、1999年度の「生成文法入門」まで、ほぼ毎年度、生成文法関係の講義を担当されてきました。ことに、1970年代から1980年代にかけては梶田優先生と隔年交替で「生成文法入門」と「生成文法特論」をご担当になり、質の高い講義を多くの受講者に提供されました。受講者の中には、その講義に知的関心を惹起され、のちに、生成文法の研究者の道を歩み始めた人も少なくありません。

わたくしが研究所の運営委員長を務めていた頃、先生は研究所の運営委員として、いつも建設的な意見を述べられ、委員長として大いに助けられました。2006年には研究所開設40周年の節目を迎え、『東京言語研究所40年の歩み』という記念誌を刊行しました。そこには「東京言語研究所の40年」と題された座談会の模様が掲載されています。その中で、長谷川先生も参加者のお一人として研究所での体験を語るとともに、研究所への思いを吐露していらっしゃいます。

社会全体が大きく変貌を遂げようとしている現在、東京言語研究所もその変化と無縁というわけにはいきません。そんな状況下で、これからも長谷川先生には大所高所からもっといろいろな助言をいただきたかったというのがわたくしの率直な思いです。

わたくしたちは長谷川先生が東京言語研究所の諸活動をとおして、理論言語学、ことに、生成文法の研究者の育成にご尽力くださったことを忘れてはなりません。

長谷川欣佑先生、長い間、まことにありがとうございました。

安らかにお眠りください。